

人権教育実践記録

第2学年	指導者	武藤 ・ 内田	
教科・領域	道徳	単元・題材	きつねとぶどう (ありがとう おうちの人)
目 標 または ねらい		展開計画 (総時数 1 時間)	
<p>きつねのお母さんの気持ちを考えることにより、父母(家族)の愛情に気づくとともに、その人々にまもれて自分が存在していると感じることができる。家族を大切に思う心情を高める。</p>		<p>絵本を紙芝居にして、きつねの親子の心の動きについて考える。</p>	
本時の学習 (実践日 平成27年11月7日 土曜日 第2校時)			
学 習 活 動		児童の主な反応・様子	
<p>1. 絵本の読み聞かせをして、話の内容について知る。</p> <p>2. 「はやく逃げなさい。」と叫んだときのお母さんきつねの気持ちを考える</p> <p>3. 子きつねが、どんな気持ちで「おかあさん、おかあさん・・・。」と言ったのか考える。</p> <p>4. 自分が、家族に大切にされていると思うことを考え、発表する。</p> <p>5. 家族からの手紙を読む。</p>		<p>○ 紙芝居で場面の絵を見ながら、静かに聞いていた。子きつねがおなかをすかせている事に共感し、母きつねが叫んだ場面では目の前のことのようにとらえることができた。</p> <p>○ 自分の命は、いいからぼうやだけでも助かってほしい。ここは、危ないから逃げて。など、自分の命を捨てても子どもの命を守ろうとする気持ちを考えることができた。</p> <p>○ ぼくは、こんなに大きくなったよ。りっぱに成長したよ。ぶどうおいしいね。など、ひとりで成長できたことを伝えたいという気持ちを考えることができた。そうした中でやはり、家族っていいなと自分の家族のことに思いを寄せていた。</p> <p>○ 「病気の時に、ずっとそばにいてくれたよ。」 「がんばっているね！」って励ましてくれる。</p> <p>○ 家族から、もらった手紙を読みながら涙を流す子どももいた。 「大好きって書いてくれているよ。」</p>	
単 元 を 終 え て の 考 察			
<p>絵本の絵を紙芝居にすることで、どうなるのだろうという期待感を持ちながら読み進めていくことができた。その絵を黒板に貼ることで盤面の様子を迫体験できた。</p> <p>この話は、時間の経過があり「それから何年も経ちました」とい言葉で押さえたつもりでいたが、話し合いをしているとそのときの経過をうまくとらえていない児童がいた。もう少し、ひとりぼっちになっておかあさんを探しながら成長していく過程をわかりやすくしていたら、また違った思いも出て、より母への想いも深まったのではないだろうか。</p> <p>ワークシートに、子きつねの気持ちを書かせることで、普段は発言が少ない子や、気持ちを考えることが苦手な子も、進んで子きつねの気持ちを考えることができた。</p> <p>おうちの人からの手紙をもらうことで、おうちの人々の想いをより身近に感じることもできた。日頃から大好きなおうちの人々が心をこめて書いてくれた手紙を読む中で感極まり、涙を流している児童もいた。</p>			